

A-5 山元町坂元中浜地区

2012年2月14日(火)

報告者名	高倉 浩樹	被調査者生年	① 1949年(男)、② 1944年(男)
調査者名	高倉 浩樹	被調査者属性	① 中浜神楽保存会副会長・年金生活者、② 中浜神楽
補助調査者	赤尾 智宏		笛担当・年金生活者

話者について

話者①は神楽保存会の副会長。昭和24年5月3日生まれ。生まれも育ちも中浜。農協に勤めた。今は年金生活者。神楽保存会には現在の会長さんとともに発足時から関わる。話者②は笛を担当。昭和19年5月22日生。彼の兄貴も、親父さんも笛を担当していた。家族で神楽に関わっている。今は無職。現在岩沼に住んでいる。郵便局に勤務していた。中浜の家の風呂のリフォームをして引っ越そうとしていた矢先に津波でやられた。

学校での神楽

現在小学校では3・4・5年生に教えている。神楽では烏の面をかぶる。特徴がある。学校の方では、楽天から寄贈されたものをつかっている。それと衣装は地元の主婦が作った。学校では、運動会それと山元町の農業祭でお披露目している。練習はこうしたイベントにあわせてしている。学校も太鼓と笛は買ったようだ。太鼓は体育館に偶然残っていたという。保存会のほうは郷土芸能大会があった。2月にやっていたほっき祭りのときの子どもの神楽が行われていた。

学校でやるのは剣舞。剣舞を学校でやるのは、この舞には人数制限がないから。とり(烏)の面は2つしかないので2人の生徒につけさせる。他の生徒はなしで踊る。学校のプログラムとしてやるのにはこれでいい。

中浜小学校の学区は中浜地区と磯地区からなる。本当は磯地区は中浜神楽とは関係ない。でも学校ではそんなことを言っていられないので両方に教える。ただし夜の保存会主催の練習のときには中浜地区のこどもにだけ教えている。

保存会と神楽

天神社の祭典はもともとは4月3日だった。ここは菅原道真公がまつってある。神楽をやっていたのは、昔は長男だけ。それが他もできるようになり、また日時も4月の第1日曜日になった。そこで伝統が崩れた。

保存会のメンバーは地区の有志で18名。30代が7名、40代が1名、50代が3名、60代が2名、70代が5名という構成。

保存会でやる神楽の踊りは12種類ある。(1) 四方固め (2) 幣束舞い (3) 八幡舞い (4) 剣舞い (5) 一本剣(天狗舞い) (6) 種蒔舞い (7) 恵比寿舞い (8) 春日舞い(遠刈田舞い) (9) 明神舞い(嫁御) (10) 獅子舞

神楽の起源についてだが、おおよそ30年ぐらい前に「400年祭」というのをやっている。これは神楽が400年ということだ。何時はじまったのか正確にはわからないが、古老達の記憶では400年前という事になっているが、もっと前かもしれない。

天神社祭典について

(1) 宵祭り、4月2日の夜にやる。前は坂元駅前にいた宮司が、ご神体を維持宅で確保していた。そこに皆が1品持参する。魚。それで酒を飲む。そして神楽をやる。四方固め、鯛釣り、種蒔き舞いと3種を奉納して、さらに祝い酒を朝まで飲む。

(2) 翌日はまたその宮司の家に行く。ご神体を見えないようにしてくるんでたんがえて神社についたら奉納する。そして神社で宵祭りと同じ3つの踊りを奉納する。

(3) 神輿を準備して、神輿の中にご神体を入れる。

(4) 定まった順路に即して神輿を練り歩き、最後は海にいて、最後は中浜生活センターに戻る。これで昼頃になる。そこで神楽を奉納する。そこでは12種類全部踊る。2時ぐらいまでかかる。

(5) 神輿渡行(とぎょう)：また順路に即して地区内をまわり、最後に海に行く。そこで海水をかける。昔は海に入ったらしいが、今はバケツに海水をかける。

(6) 格納：神社に神輿を納める。それでその後、「おすがた」(ご神体)を駅前の宮司の家にもって行く。金庫にいれておいた。

神楽の太鼓への支援

日本財団からの支援で、太鼓の新規購入希望に関する照会があって、現在動いている。この話があった時には、保存会の会長は町会議員だったが、選挙があった。それで動けないと判断して、自分たちが勝手に動いてしまった。太鼓のことで、学校の先生と一緒に動いている。連絡をとりあっている。現在のところ2月11日(土曜日)に登米にいて引き渡し式があった(?)。2月27日には正式に日本財団から受け取る。

今回申請したのは和太鼓で、大太鼓2、小太鼓3、笛7本である。震災前の道具は文化庁からの支援で修復していた。それが3.11で流されてしまった。

神楽の被災

震災後の状況として、当面の問題は太鼓や笛はなんとかなったが、面をどうするかという問題がある。

浜通りの地区にある天神社(高瀬天神社とは別)は鳥居が10メートルぐらい流された。それで見つかったのが、クレーンで12月30日に作業をおこない再建した。津波は波が力をもっているというよりも、がれきが力を発揮する。それであんなに重い鳥居もながされた。

区は鳥居がみつかったも建て直す気はなかった。保存会でイニシアティブをとってやった。クレーンを出してくれたのは亘理にある光重機(逢隈上郡字若宮45-1)でボランティアでやってくれた。

現在、面を探している。業者からカタログを取り寄せたが、近代的なものばかりでとても選ぶ

気にはなれない。面の写真やビデオはもっていたが、家に保存しておいたので津波で全部ながされてしまった。今年の小学校の運動会で神楽を撮影したものだけが現在ある。

鳥の面がなかなかない。春日舞いで使う。この舞いはおもしろおかしい。嫁御だましもおもしろい舞いだ。きつねにだまされて連れ去られる話。色気があり。嫁御の面もちょっとかわいい。

天神社には菅原道真公が本殿に祭ってあった。400年祭をやった根拠がこの像がみつかった。400年ということらしい。その時の話は、以下の通り。ある漁師が漁をやっていたら像がかかった。いらないので海に戻すのだが、何度やっても網に引っかかる。それで陸にもってきて、斧で割ろうしても割れない。それでご神体ということがわかった。ご神体は祭典のときに神輿のなかにいれて担ぐ。しかしだれも見ていない。400年祭の時にもみていないという。見ると目が瞑れるという。現在の太宰府にも像はないという。ここに来た由来は、あるときに太宰府の像を流して、それがここに流れ着いたのだという。神社のなかには鏡をご神体をしているところが多い。しかしここではちゃんと像がある。

神輿になかにいれられるぐらいだから、抱えられるぐらいの大きさだと思う。

★ご神体について

今回の震災で宮司はなくなった。現在、天神社に奥の院をたてて金庫をいれてご神体を保管している。今までは宮司の家で保管していた。

本来はこのご神体は坂元神社が欲しがっている（A宮司）。しかし中浜と仲が悪く、歴史的経緯もありこちらで保管している。宮司の家族は太宰府に返すというようなことも言っていた。区ではこれにストップをかけさせ、奥の院をたてて保管している。ご神体を守っていく事が重要。少なくとも自分たちの代まではこのことは重要（次の世代はわからないが）。祭り事に区長は実質的には関わっていない。神楽保存会が中心でやっている。このあたりでご神体として菅原道真公をまつっているところはない！（それは誇りというニュアンス）。

学校での神楽

神楽の笛は六穴。ドレミではない。中浜小学校の女の先生（B氏？）がビデオで録音し、記録した。それをつかって子どもたちに教えている。この先生は臨時採用だった。岩沼出身。

今学校では全学年がやっている。6年生10人。全校生は35人。

昔中浜小の生徒に神楽を教えたのは、現在の保存会の会長さん。その教え子で震災前まで神楽保存会で一番一所懸命やっていた人が今回なくなった。学校で教える時には、委嘱状もでていた。臨時の職員ということになっていた。

学校でやるときには、昼間。その時には生徒全員でいる。時間内でやる。これに対して神楽保存会で練習する時には時間外。親の承諾をもらってやる。夜。

年中練習をしていたが、そうすると月に1-2回となり、人の集まりがわるい。そのため祭典の前に集中的に練習をした。練習場所は生活センター。そこに道具一式を置いておいた。それですべて流された。何一つ見つかっていない。

道具の被災

面ははげてきたので自分がときどき塗り替えていた。獅子頭のほうは文化庁の予算もらって直

してもらったばかりだった。

太鼓は石川浅野太鼓店から購入する事になった。これについてもなぜ石川県なのか、地元の業者ではないのかという思いもあったが、日本財団からの寄付ということなので業者の選定は従った。

面については写真がのこっていればそれに基づいて作り直す事ができるが、その写真がない。

神楽をめぐる被災状況

神輿は昔は担いでいたが、今は傷みがあることと担ぎ手が不足しているので、自動車にのせて動かす。震災の後は神輿はやっていない。今年は保存会としては祭典で神楽をやりたいが、無理だろうと思っている。

おそらく中浜区としては俺たち保存会がやるといえば承認してくれるだろう。もしそうなったら学校にお願いしてということになると思う。学校では6年生が中心で踊っている。卒業するとつづかないのが残念。今年の6年生は10人。震災で学校の児童数も減った。親は電車がないのでここからでていく。町としては2,000人移動した。山元町の悩みの種だろう。

保存会のなかの若手で学校で教えてもいた2人のうち、1人は自分の親戚で生存、もう1人は亡くなった。通常だと毎年、学校で教えるために臨時の先生に任命されていた。今年度はまだもらっていない。

今年の運動会での子ども神楽に際しては、保存会の7-8人で30人ぐらいの児童を教えた。一堂会してやるのもいいが、2-3のグループにわけて練習した。

要望

神楽の面と衣装の情報が欲しい。カタログなど。注文するにしても自分たちのほしい型に近いものがあればいいと思う。

日本財団から支援で太鼓を購入してもらえることになった。この財団の支援対象は創作太鼓のようであり、彼らは太鼓だけがあれば復活できるが、自分たちは太鼓だけでは動けない。でもまずはすこしずつそろえることが重要。